

株式会社 常磐植物化学研究所
CSR Report 2013
(社会・環境活動レポート2013)

対象期間 : 2012年4月～2013年3月

発行日 : 2013年8月30日

目次

ご挨拶	3
-----	---

教育CSR

根郷小学校での理科実験教室	4
佐倉市教育委員会主催「楽しい科学教室」への参加	4
県立佐倉高校を迎えての実験実習教室	5
法政大学「植物化学ビジネス論」	5
「若手研究者応援プロジェクト」と「教育応援プロジェクト」への参加	5

植物化学の発展に貢献

協賛学術振興機関の一覧	6
共同研究機関の一覧	6
学会／論文・寄稿 一覧	6
加盟業界団体	6

その他社会貢献活動

地域周辺美化活動	7
残渣堆肥化によるゼロエミッション活動	7
常磐植物化学研究所 ハーブ園／薬用植物園	7
スポーツ奨励活動	7

環境活動レポート(エコ・アクション21)

エコ・アクション21とは	8
環境方針	8
登録事業所の概要・環境経営組織図	9
環境活動の取組計画と評価	10
環境目標及びその実績	10
2013年度 環境活動計画	11
中期目標(2013年～2015年)	11
環境関連法規の遵守状況	12
代表者による評価と見直し	12

常磐植物化学研究所

CSR Report 2013

【ご挨拶】

常磐植物化学研究所のCSR Report をご覧いただき、誠にありがとうございます。

2014年10月、弊社は65周年を迎えます。2008年に環境経営システムを導入し、2009年から社会・環境活動報告書を作成するようになりました。

今年度CSR Report と名称を改めるのに際し、CSR基本理念を考えていたところ、CSRの基本理念が1949年に書かれた「設立趣意書」にすでに表現されていることに気がきました。これからも社業発展を通じて、社員の幸福に貢献し、単に営利を目的とするのではなく、事業活動を通じて植物化学と地域社会の発展に貢献して参りたいと思います。

株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

「CSR基本理念」

私たちは、植物と共にあらゆる可能性を追求することにより社会へ貢献します。持続可能な企業活動を行うために、植物資源の調達から、植物化学研究及び開発、加工、製品化、すべてにおいて、地球環境への影響を重視し、積極的に保全活動に努めます。また、薬用植物の試験栽培、科学教育の推進を通じて、植物化学の発展、植物とヒトの豊かな社会作りに貢献します。

「設立趣意書」

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の趣旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月

株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人



常磐植物化学研究所の教育CSR

根郷小学校での理科実験教室

教育CSR活動の一環として、佐倉市立根郷小学校の児童のみなさんを対象として甘草の甘さ体験などの化学の実験授業を行いました。児童のみなさんは、砂糖の150倍の甘さの甘草を体験し、とても驚いていました。

来年も継続します。

実施日：2013年1月28日

ビルベリー成分の実験

ビルベリーからアントシアニンという成分が取れ、それがどのように私たちの生活に関わっているのかを伝えました。

【目的】 植物から成分を取り出す方法を知る

【手順概要】 ① 果汁液を入れる ② コックをひねる
③ 少量に分ける ④ エタノールを入れる

【結果】 アントシアニンのみの青色溶液がとれる

甘草成分の実験

甘草(カンゾウ)という植物は、医薬品・化粧品・食品にどのように使われているのか伝えました。

【目的】 植物に含まれる成分のちからを知る

【手順概要】 ① 粉末を水に溶かす ② 甘さが弱い順に舐める

【結果】 砂糖の150倍で、後から来る甘さを体感



授業風景



佐倉市教育委員会主催「楽しい科学教室」への参加

2013年2月2日 志津コミュニティセンター「楽しい科学教室」

教育CSR活動の一環として、佐倉市教育委員会主催の「楽しい科学教室」に参加し、科学実験授業を行いました。北欧産ブルーベリーからアントシアニンを抽出する実験、甘草の甘さ体験をしました。小中学生の皆さんやそのご家族の皆さんに実験を楽しんで頂きました。



担当講師からのコメント 研究開発部 嶋田



植物はさまざまな色や成分を作り出します。その中には、私たちの生活に役立つものも多くあります。私達はそれらの機能を調べ、植物から必要な色や成分を取り出すことを行っています。

身の周りに当たり前にある植物について、科学の目で眺めてもらいたいと思い、実験内容を考えました。限られた時間ではありますが、実験体験を通して「植物の面白さ、凄さ、そしてそれを感じられるように出来る科学の楽しさ」を一人でも多くの子供に感じてもらいたいと思っています。

「観察、実験、考察」の体験を通して 多くの子供が科学の楽しさに気がついてもらえれば幸いです。



常磐植物化学研究所の実験実習教室

常磐本社のある佐倉を中心に、私たちは地域に密着したCSR活動を行っております。
社員ひとりひとりが地域社会の一員であることを認識し、今後も活動を継続していきます。

「～常磐植物化学研究所講座～植物の成分を精製しよう！～」

【実施校】 千葉県立佐倉高等学校 1年生 20名

【実施日】 2013年1月18日

【目的】 教育CSR活動の一環として実験教室を毎年行っています。科学を身近に感じてもらい、次世代を担う人材の育成を目指しています。佐倉高校は大学や研究機関、企業との連携により、研究者による講演会や先端技術に触れる機会を設けることで生徒の科学への関心を高め、国際的な人材の育成を目指しています。



授業内容

「植物から化学成分を取り出す意義」、「精製とは何か」、精製技術の原理について、「実験実習の内容」の講義の後、薄層クロマトグラフィー法により甘草エキス中に含まれる成分を展開分離し、目的成分であるグリチルリチン酸を紫外線ランプ下で確認しました。展開中の時間を利用して4%のショ糖水溶液と0.4%のグリチルリチン酸水溶液の甘味の違いの確認や甘草そのものを口に含み甘味体験も行いました。



実習風景



実験実習で学んだ原理を、産業に利用されている実際の施設を見学しました。
実験は数十 mL の溶液で行いましたが、工場では数百 L のスケールで溶液を使用して作業が行われています。

法政大学「植物化学ビジネス論」

2009年より、法政大学生命科学部の2年生約50名対象に、植物医科ビジネス論にて「植物化学ビジネス論」と題した講義をしています。
毎年多くの大学生に聴講して頂いており、学生の反応も良く、植物化学への関心の高さが分かります。実施日：2012年12月15日



「若手研究者応援プロジェクト」と「教育応援プロジェクト」への参加

最後に、当社は、教育CSR活動の一環として、株式会社リバネス様の「若手研究者応援プロジェクト」と「教育応援プロジェクト」に参加しています。

教育応援プロジェクト <http://www.kyouikuouen.com/about/>

若手研究者応援プロジェクト <http://ysep.info/about>

植物化学の発展に貢献

協賛学術振興機関の一覧

下記団体に参画・寄付・協賛を継続的に行っています。

日本学術振興会 - 植物分子デザイン第178委員会

植物化学シンポジウム(植物化学研究会)、日本植物細胞分子生物学会、日本生薬学会、

(公財)木原記念横浜生命科学振興財団、和漢医薬学会、日本中医食養学会、

日本薬史学会、第15回天然薬物研究方法論アカデミー、東京大学乙卯研究所、

植物CO2資源化研究拠点ネットワーク(NC-CARP)産学連携コンソーシアム

共同研究機関の一覧

下記の大学・研究機関等との共同研究を行い、植物化学の発展に寄与しています。

【2012年度】

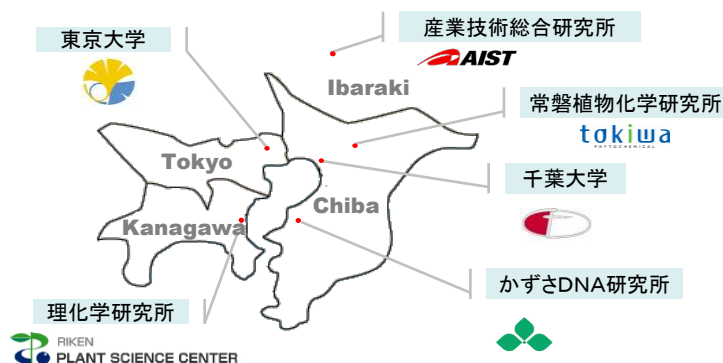
東京大学、千葉大学、北里大学、

日本大学、武蔵野大学、東京理科大学 等

産業技術総合研究所(産総研)、

かずさDNA研究所、理化学研究所、

イノデンタルクリニック 等



学会／論文・寄稿一覧

【学会】

日本臨床環境医学会総会(第21回,新潟, 2012)

「ゲッケイジュ葉の口腔細菌およびグラム陽性菌に対する作用 口腔健康から全身の健康へ」
生薬学会 (第59回年会, かずさアカデミアパーク, 2012年)

「*Kaempferia parviflora*に含まれるSIRT1活性化物質の探索」
生薬学会 (第59回年会, かずさアカデミアパーク, 2012年)

「漢方の抽出条件が成分構成に与える影響」

日本中医食養学会主催 第4回学術発表会「からだを衛する薬膳」(2013年)
「漢方を応用した未病に対する健康食品の開発」

日本薬学会 (第133年会, 横浜, 2013年)

「N-メチルニトロソ尿素に対する甘草中の抗変異原性成分」

日本薬学会 (第133年会, 横浜, 2013年)

「メチルニトロソ尿素に対する大豆イソフラボンの抗変異原性」

【論文・寄稿】

「ラフマ抽出エキス」 『抗ストレス食品の開発と展望Ⅱ』, (株)シーエムシー出版, 158-162. (2012)

「ビルベリー」 『抗ストレス食品の開発と展望Ⅱ』, (株)シーエムシー出版, 204-208. (2012)

「～健康寿命を延ばそう～ アンチエイジング素材サートマックス(黒ウコン抽出物)」

『FOOD STYLE 21』, 食品化学新聞社, 2013年4月号

加盟業界団体

社会貢献の一貫として、下記団体に加盟しています。

(公社)東京医薬品工業協会、日本医薬品原薬工業会、(一社)千葉県製薬協会

(公社)東京生薬協会、日本食品添加物協会、(公財)日本健康・栄養食品協会、

(一社)日本栄養評議会、(一社)日本健康食品規格協会、化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会、

日本ブルーベリー協会、千葉県食品産業協議会、(一社)千葉県経営者協会、日蘭協会、佐倉商工会議所

その他社会貢献活動

地域周辺美化活動

「地域の人々との共生」をテーマに、毎月会社周辺の美化活動を行なってきました。

また、もっと地域に貢献できることはないかと考え、美化活動の傍ら道行く人に挨拶を投げかける運動も始めました。

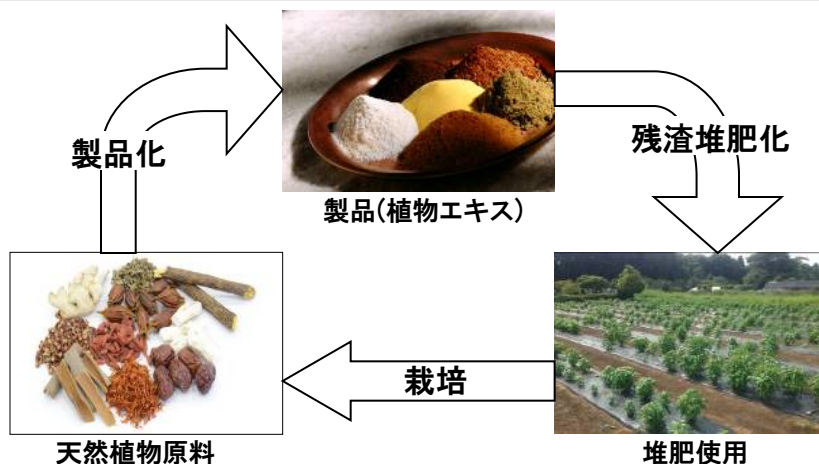
新しく採用したジャケットには「挨拶 地元を元気に！」のロゴが入ります。私たちの運動が地域社会に元気・活力を与え、大きく広がっていくことを願っています。



残渣堆肥化によるゼロエミッション活動

様々な植物から抽出した植物エキス（機能性食品原料等）を製造しています。その製造の中で作られる抽出残渣を堆肥として利用（残渣堆肥化）しています。

その堆肥は、地域の農家の皆様に利用して頂き、地域環境へ貢献しています。



ハーブ園/薬用植物園

本社工場に隣接した当社ハーブ園/薬用植物園では、ブルーベリー、バジル、ローズマリー、クレソン、ルッコラ等の50種類の東洋ハーブとハトムギ、ニンジン等の40種類の生薬、そして、35種類のローズを栽培しています。

また、サーナピアショップでは、2012年8月8日～10日ブルーベリーフェアが開催され、ブルーベリー狩りでは、お子様たちに大変喜んでいただきました。



お子さまに人気のブルーベリー狩り。
十分楽しんでいただきました♪

ショップの中も大盛況です

スポーツ奨励事業

スポーツ奨励事業の一環として、千葉県食品製造健康保険組合主催の野球大会へ参加しています。



2012年8月26日に千葉県食品製造健康保険組合野球大会の決勝戦が行われました。三連覇のかかった試合でありましたが、ユアサフナシヨク(株)に惜しくも敗れ、当社は、準優勝という結果となりました。来期は「優勝」の二文字を取り戻すべく、精進していきたいと思います。たくさんのご声援ありがとうございました。

常磐植物化学研究所は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21認証登録制度」に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。またエコアクション21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

エコアクション21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的、効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、取り組みを行い、それらを継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。
エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を、審査し、認証・登録する制度が、エコアクション21認証・登録制度です。



エコアクション21

認証・登録番号0003872

環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化
環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。
2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進
エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。
3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進
廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。又、グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。
4. 環境関連法規の遵守
環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。
5. 環境方針の周知と社内教育の推進
地球環境と共栄していくための教育を行い、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。
6. 地域の人々との共生
地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2013年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

登録事業所の概要・環境経営組織図

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <http://www.tokiwapn.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 工場長 : 木村 宜仁 TEL 043-498-0007
担当者 EA21事務局 : 大上 崇 (t-daijo@tokiwapn.co.jp) TEL 043-498-0079

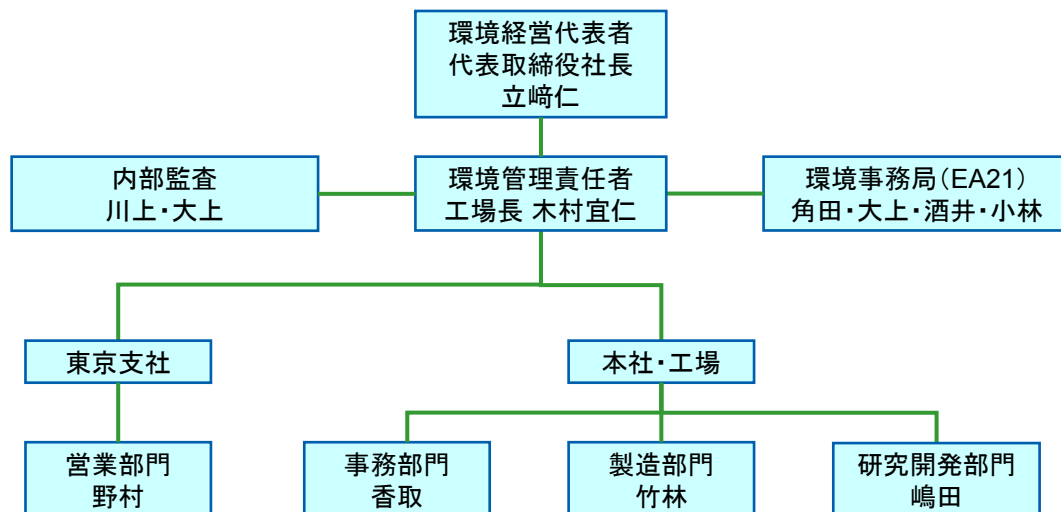
事業内容(認証・登録の範囲)

医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
認証・登録範囲 全組織(本社・工場及び東京支社)及び全活動

事業規模

製品出荷額 28億円／年
主要製品生産量 966t／年
食品廃棄物等の発生量 787t／年
従業員 本社・工場 91名 東京支社 14名 (2013年4月1日現在)
工場延べ床面積 本社・工場 8,297㎡ 東京支社 138㎡

環境経営システム組織図



環境活動の取組計画と評価

環境目標及びその実績

項目	年度	全 社			本社・工場			東京支社		
		2010年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度	2012年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減	t-CO ₂	1,549	1,645	1,629	1,545	1,641	1,625	4.90	4.80	4.50
二酸化炭素排出量(燃料)の節減	t-CO ₂	2,833	3,015	2,685	2,833	3,015	2,685			
一般廃棄物の削減	総量(t)	37.53	35.49	37.26	37.2	35.2	36.9	0.33	0.29	0.36
産業廃棄物の削減	総量(t)	60.9	66.6	61.4	60.9	66.6	61.4			
総排水の節減	総量(m ³)	96,686	114,478	100,849	96,591	114,378	100,743	95	95	106
食品廃棄物リサイクル率の維持	(%)	99.4	98.3	98.3	99.4	98.3	98.3			
参考／製品の拡売	生産量(t)	900	788	966	900	788	966			

2012年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み

本社・工場

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・休憩時間中の照明の消灯・エコプロ導入電気使用量削減	目標: 1,521 t-CO ₂ 実績: 1,625 t-CO ₂ 106.8%	生産増加、新棟建設により目標値を超えてしまっている。 工数短縮化、省エネ機器導入を検討する。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ・エコドライブ運動の推進・蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標: 3,027 t-CO ₂ 実績: 2,685 t-CO ₂ 88.7%	蒸気漏れの修理、ボイラー使用の見直しなどで一定の成果
一般廃棄物の削減 ・消耗品の購入管理・分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標: 32.0 t 実績: 36.9 t 115.3%	分別、リサイクルは継続して行っている。 PETのリサイクルを開始。その他リサイクル化を継続
産業廃棄物の削減 ・有機溶媒の省力化・産業廃棄物管理	目標: 59.7 t 実績: 61.4 t 102.8%	産廃処理業者の情報を収集し、有価、リサイクルを検討する
節水 ・各工場への節水教育・退出時の見回り実施、節水意識向上	目標: 94,659 m ³ 実績: 100,743 m ³ 106.4%	工場内の節水意識は向上。 生産性改善、製造工程の見直しなど、工場全体で取組み強化
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ・リサイクルの推進・動植物性残渣の低減	目標: 80.0 %以上 実績: 98.3 %	植物抽出残渣を自社で堆肥化する事でリサイクル率を維持。
地域社会との共生 ・周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	引き続き周辺美化活動を継続していく。

東京支社

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・エアコン設定温度の管理・未使用機器の電源を切る	目標: 5.38 t-CO ₂ 実績: 4.50 t-CO ₂ 83.6%	実績からも活動の成果が大きく見られた。 エアコンの温度管理など無理のないようにし維持していく。
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用によるコピー用紙の削減・書類の紙媒体削減	目標: 337 kg 実績: 354 kg 105%	引き続き継続して、印刷用紙の使用量削減に 努めていく。
節水 ・節水の周知徹底、節水機器の設置・退出時の見回り実施	目標: 94 m ³ 実績: 106 m ³ 112%	実績からもすでに削減が難しくなっているが、 節水意識を周知することで、目標に近づけるよう活動していく。

総括(全体評価と見直し内容)

定期点検など日常の活動はしっかりとできている。しかしいくつか目標達成が難しい内容もあり、工数削減、設備の改修など技術的に踏み込んでいく必要がある。その意識を社員に浸透させ、積極的な提案がでるような環境づくりを進めたい。

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は本社・工場=0.555、東京支社=0.332とする。

2013年度 環境活動計画

2013年度 部門毎取り組み予定

部門	項目	取り組み内容
製造部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 昼夜連続稼働機器及び長期不使用・非稼働設備の洗い出し ■ 省電力機器の検討・導入による消費電力の削減
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ ボイラーの管理 ■ 減圧弁・安全弁・バルブ類点検と管理
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物分別の管理
	産業廃棄物の削減	■ 産業廃棄物の分別・整理・管理 ■ 食品廃棄物の分別の徹底及び管理
	節水	■ 工場内の水漏れの定期点検 ■ 工場用水の使用量の把握と管理
	化学物質使用量の削減	■ 抽出溶媒回収率の把握と管理
	環境配慮製品の開発・販売促進	■ 再生品の把握と管理
事務部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ エアコン設定温度管理の徹底
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ 社用車の走行距離・ガソリン購入量の記録化 ■ 走行距離に応じたメンテナンス実施
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 本社事務所の可燃ごみ重量測定
	節水	■ 使用量の徹底管理(テーター更新&集計) ■ メンテナンスによる漏水防止
	グリーン購入の推進	■ 購入品の把握と購入推進
研究開発部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し ■ 休憩時、退出時等の消灯実施
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物の重量の把握 ■ ゴミ分別の徹底によるリサイクル率の向上
	産業廃棄物の削減	■ 適正な分別の徹底 ■ 廃液処理手順の見直し
	節水	■ 器具洗浄方法の見直し ■ 退出時に見回り、元栓の開閉を実施
	化学物質使用量の削減	■ HPLC移動相の適正量調査
営業部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ エアコン設定温度管理、スーパークールビズ対策 ■ 照明及び未使用機器の節電
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 書類の紙媒体削減、可燃ごみの削減
	節水	■ 節水の周知徹底、節水機器の設置

中期目標

項目		2012年度 (基準年)	2013年度	2014年度	2015年度
本社・工場	二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,356 t-CO ₂	1,349 (0.5%削減)	1,340 (0.7%削減)	1,326 (1%削減)
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,685 t-CO ₂	2,671 (0.5%削減)	2,653 (0.7%削減)	2,626 (1.0%削減)
	一般廃棄物の削減	36.9 t	36.5 (1%削減)	36.3 (1.5%削減)	36.2 (2%削減)
	産業廃棄物の削減	61.4 t	60.8 (1%削減)	60.2 (2%削減)	59.6 (3%削減)
	総排水の節減	100,743 m ³	99,735 (1%削減)	98,728 (2%削減)	97,720 (3%削減)
	化学物質 使用量の削減	アセトニトリル	469 kg	464 (1%削減)	462 (1.5%削減)
		クロロホルム	54 kg	現状維持	現状維持
		エタノール	528,000 L	517,440 (2%削減)	512,160 (3%削減)
	グリーン購入の推進	20品目	22品目(10%増加)	24品目(20%増加)	26品目(30%増加)
	製品についての再生品の低減	活動検討	現状把握	再生品の低減	再生品の低減
東京支社	食品廃棄物リサイクル率の維持	80 %以上	維持	維持	維持
	二酸化炭素排出量(電力)の節減	6,212 kg-CO ₂	現状維持	現状維持	現状維持
	一般廃棄物の削減	354Kg	351 (1.0%削減)	349 (1.5%削減)	347 (2.0%削減)
	総排水の節減	106 m ³	現状維持	現状維持	現状維持
	グリーン購入の推進	8品目	9品目(10%増加)	10品目(20%増加)	11品目(30%増加)

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2011年の値=0.463を使用する。

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)
温対法	全事業所	○(定期報告)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)
工場立地法	本社・工場	○(届出)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク 貯蔵所など	○(届出、測定)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、 マニフェスト管理)

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
フロン回収破壊法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(証明書の管理)
食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、 リサイクル率 98.3%)
家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
高圧ガス保安法	高圧ポンプ等	○(管理)
自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

違反、訴訟等の有無

上記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は98.3%と維持できています。
なお関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

代表者による評価と見直し

総括

昨年に引続き、環境経営の強化を継続することができた。生産調整による環境負荷の増減を除けば、環境負荷または衛生環境においては大きな課題は見受けられなかった。一方で、安全環境においてはいくつか課題が挙げられた。内部監査においても、内部監査人の教育が今後重要になると考えられた。新年度は、安全環境の改善と内部監査機能を強化することで、更なる環境経営の強化に繋げていきたい。

株式会社常磐植物化学研究所 <http://www.tokiwapl.co.jp/>

本社/工場: 〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158番地

TEL043-498-0007 Fax043-498-0561

東京支社: 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6階 TEL03-5200-1251 Fax03-5200-1256